



# 平成24年3月期 第3四半期連結決算

補足説明資料

2012/02/10

AISAN TECHNOLOGY CO.,LTD



# 補足説明資料①

## 1. 平成24年3月期第3四半期連結決算を振り返って

### (1) 総括

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、視界不良な欧州発の金融不安に起因する世界経済の沈滞した状況を受け、ユーロ安とドル安の影響から、これまで以上の円高基調によって製造業を中心に厳しい状況で推移しました。

一方、東日本大震災からの復旧と復興に向けた予算関連の執行も始まり、当社グループの主たる販売市場であります測量市場では、計測機器を中心としたハード需要が高まりつつあります。このような状況において、当社グループは、測量計測機器のグローバルメーカーであるライカジオシステムズ株式会社とのアライアンスのもと、測量における観測作業の効率化を促進する新商品「ATStation（エーティステーション）」並びに世界「初」となる同心円レンズを搭載した「BAUMStation（バームステーション）」を発売、主力製品「WingNeo INFINITY（ウィングネオ インフィニティ）」と合わせてお客様に向けた積極的な提案活動を進めてまいりました。また、保有するモバイルマッピングシステム（以下、MMS）の3次元地図計測に係る需要の喚起を目指した営業展開の強化から、東北地区を中心に積極的な計測走行の受注に努めてまいりました。

### (2) 年次計画の進捗について

平成24年3月期における年次計画の進捗は、残念ながら当四半期においては計画を下回る結果となりました。

主な要因として、新製品WingNeo INFINITY 2の先行予約キャンペーンは順調な滑り出しを見せたものの、測量の観測業務に用いる外業系商材の伸び悩んだ結果と判断しております。商戦期である第4四半期に向けては、本要因の対策を講じまして年次計画の達成に努めてまいります。



# 補足説明資料②

## 2. 事業別の売上高について

### (1) 主力製品の販売市場である「測量」市場における状況

当第3四半期連結累計期間における「測量」市場の状況につきましては、引き続き東日本大震災からの復旧と復興を見据えた業務に対する様々な事前確認が進められるとともに、復旧と復興に向けた予算関連の執行も始まり、市場では計測機器を中心としたハード需要及び購買意欲が高まりつつある状況にあります。MMS等の最新測量技術も一部復興業務で導入され、今後もこの動きが加速する見通しとしております。

### (2) 3次元計測の市場の状況

MMSの活躍が期待される3次元計測の市場状況につきましては、昨年度と比較しても確実に案件数が増加する傾向にありますと共に、社内の3次元計測におけるノウハウの熟成が進んでおります。復旧と復興の現場を始めとする土木・測量市場での活用に加え、ITS分野での利用推進も展開しております。また、このノウハウを基礎とした3次元計測を効率的にソリューションするソフトウェアの開発を進める事が当社の最たる強みになると判断しております。

### (3) ライカジオシステムズ株式会社とのアライアンスに関して

ライカジオシステムズ株式会社よりOEMを受ける「ATStation」、世界初の同心円レンズを搭載した「BAUMStation」を始めとした様々な計測機器を、測量現場における観測作業の効率化を推進する商品の積極的な提案活動は、お客様から高い評価を頂戴しております。



## 補足説明資料③

### 3. 四半期財務諸表に関して

#### (1) 四半期連結貸借対照表において「現金及び預金」の残高が前期末と比較した減少要因は？

また、その対策は？

主な原因は第3四半期連結累計期間において100百万円の社債償還を実施していること、並びに当第3四半期連結累計期間において四半期純損失57百万円を計上していることなどに起因し、「現金及び預金」の残高が減少しております。その具体的な対策については、あらゆる方向性を見据えながら適宜な時期に実施できる環境整備を進めてまいります。

#### (2) 四半期連結貸借対照表において「受取手形及び売掛金」が前期末と比較した減少要因は？

当社グループでは例年お客様の購買意欲の上がる年度末に販売キャンペーンを実施しております。第41期第4四半期においても製品及び保守サービス販売のキャンペーンを実施し、売上（保守サービスは期間按分）が増加致しました。その為、期首においては受取手形及び売掛金が増加する傾向にあります。

#### (3) 四半期連結貸借対照表の流動負債の「支払手形及び買掛金」が減少している要因は？

上記(2)のご説明と関連しますが、第41期末に行った販売キャンペーンの為、前連結会計年度末においては販売に附随する仕入が年間通じて増加しております。その結果、支払債務も増加する傾向にあります。

#### (4) 四半期連結貸借対照表の流動負債の「短期借入金」の内容とその借入の目的は？

当社の取引先3行より、短期の運転資金での活用等を目的に150百万円を調達したものです。なお、返済は平成24年3月末までに完了する予定としております。



## 補足説明資料④

### （５）四半期連結貸借対照表の流動負債の「前受金」が減少している要因は？

前期末の前受金は、昨年度にお客様に販売した当社製品の保守サービスのうち、契約期間が当期に係るものを計上しておりました。その契約期間の経過とともに収益として認識してきたため、「前受金」は減少しております。また、当期獲得した保守サービス契約更新の時期が、第４四半期に集中していることから、トータルで減少する結果となっておりますが、契約更新を確実に行うことで、第４四半期末には第３四半期末に比べ増加を予定しております。

### （６）四半期連結損益計算書において増収減益の要因は？

当社ソフトウェア製品を使用いただくお客様に向けた新製品「WingNeo INFINITY」へのアップグレードの提案活動を強化すると共に、WingNeoシリーズの最高峰と位置付ける「WingNeo 3D Advance」の利活用提案を行い、さらにはライカジオシステム株式会社とのアライアンスのもと発売した新ハード商品と合わせて積極的に展開してまいりました。また、３次元地図計測ビジネスは昨年度までの需要喚起に向けた活動から計測受託案件が増加しつつあります。これらの結果、売上高は増加いたしました。一方では自社開発ソフトウェア製品と比べて原価率の高いハード商品の販売も新たに展開したことにより、売上原価も増加する結果となりました。また、MMS関連の研究開発などを進めた結果、前年同期比28百万円増の試験研究費を計上したことにもよります。

### （７）四半期連結損益計算書の営業外費用に計上されている「和解金」は何か？

平成23年３月に当社が請負った業務の成果に不備があり、発注会社においてその成果修正を行う等の業務が発生した為、発注先との話し合いのもと、第42期に和解金を支払ったものであります。



## 補足説明資料⑤

### 4. 東日本大震災の復興の取組みについて

#### (1) 当第3四半期連結累計期間において当社に与える影響はあったか

影響はありました。被災地区におけるお客様の状況は様々である中、まずは復旧に向けたお客様の動きに対して、廉価なレンタルパッケージを用意いたしまして、そのご利用をご提案してまいりました。

今般の第3次補正予算執行が始まったことに伴い、復旧復興計画を始めるに際してまず始まる測量業務に必要とされる計測機器を中心としたハード需要が高まりつつ、MMSによる3次元計測においても、東北地区での計測活動に係る引き合いが増加しております。

#### (2) 今後の業績に与える影響はどうか

東日本大震災からの復旧復興に向けた18兆円の予算編成から、その執行が始まる段階に入りました。

被災地の力強い復興に向けて、測量業務は不可欠であるため、それらに向けたソフトウェアとソリューションが当社に期待されております。

#### (3) 震災後の復興への過程において果たす役割について

当社は「測量」をソフトウェアでソリューションするメーカーであり、特に位置情報に関連する様々なテクノロジーを有しております。本震災の復興に向けては、そのテクノロジーを最大に利活用したソフトウェア開発を進めることと共に、当社独自のプロジェクトチームを発足させ、本震災に伴う地殻変動による各分野への影響をホームページ上等でお伝えし、関係機関にその対策を提言していくことが、被災地への復興の一助となると考えております。



## 補足説明資料⑥

### 5. 診療所向け手書き電子カルテ「Dr. Hands Pen」の見通しに関して

東京農工大学とJST（独立行政法人科学技術振興機構）大学初ベンチャー創出推進として共同開発いたしました。

世界最高水準の「高精度なオンライン手書き文字認識技術」を利用した電子カルテ「Dr. Hands Pen」は、昨年12月の発表を受け、関係業界から多数のお問い合わせを受けております。同製品の特長であります「高精度なオンライン手書き文字認識技術」には医療の関連業界から高い注目が集まり診療所におけるIT化の一翼を担うべく拡販に努めてまいります。

### 6. 準天頂衛星「みちびき」を活用した取り組みに関して

当社は、SPAC（衛星測位利用推進センター）が進める準天頂衛星「みちびき」の民間利用実証実験に積極的に参加しております。特に「みちびき」から発信される位置情報を取得・解析・表示するモバイルで利用する試験的なソフトウェアを開発し、本実証実験に参加する多くの企業に利用頂いております。今後は具体的な商品化を目指し「みちびき」民間利用の広がりの一助に貢献してまいります。また昨年11月には韓国済州島で開催されました第3回アジア・オセアニアGNSS地域ワークショップに参加し、当社が取り組む「みちびき」のITS分野に係る利用実証に関して中間報告をいたしました。

### 7. 「あいちITSワールド2011」への出展と、これからのMMS事業の展開に関して

MMSおよび本システムから作成する3次元計測データをITS業界等、位置情報を活用する新たな市場への有効性をPRし、ITS業界向けには、MMSで取得した道路の3次元情報の利活用についてのご提案を行いました。ご来場いただきましたお客様、特にITSの研究開発を行っている自動車業界や研究機関の方々からは、高い関心を寄せていただき、当社の技術がITS業界にも利活用いただけると確信いたしました。